

道路事業の再評価説明資料

〔国道159号 かなざわ 金沢 とうぶ 東部 かんじょう 環状道路〕

（一括審議）

令和2年10月

北陸地方整備局

目 次

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点	P	1
2. 事業の投資効果	P	3
3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）	P	4
4. 費用対効果	P	5
5. 事業の必要性、進捗の見込み等	P	6
6. 対応方針（原案）	P	8

別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

(1) 前回事業評価からの事業実施状況

年度	主な経緯
平成18、22、25、27年度	事業再評価（指摘事項なし、継続）

(2) 事業の進捗状況

令和元年度末、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約1,250億円	約1,145億円	92%	約105億円
うち用地費・補償費	約189億円	約189億円	100%	0億円

○金沢市月浦町～同市神谷内町間においてトンネル工事、改良工事を推進中。

(3) 今後の事業展開

- 金沢市月浦町～神谷内町間（1.8km）の早期4車線開通を目指して、月浦トンネル（Ⅱ期線）のトンネル工事及び改良工事を推進する。
- 金沢市梅田町～月浦町間（2.1km）についても、早期の全線4車線化に向けて、事業を推進する。

【構造規格】 種級区分：3種1級、設計速度：80km/h

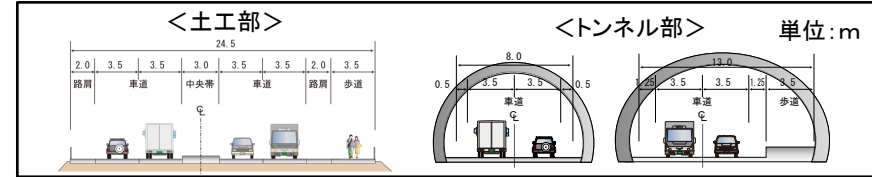


図1-4 標準横断面



図1-1 広域図



図1-2 広域図



図1-3 位置図

交通量出典：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査



写真1-1 神谷内ICから月浦TN

1. 前回事業評価からの進捗状況及び変更点

(4) 前回事業評価からの変更点

月浦トンネルの補助工法の追加

- 当初設計では、地質調査及びI期線の施工実績を踏まえ、トンネル中間部においては、健全な「シルト岩層」を想定していたが、未固結の脆弱な地質が連続していることが判明。
- 掘削時の天端崩落や鏡面崩壊の危険性を防ぐため、新たな切羽安定対策が必要となった。

- ・未固結な砂岩、凝灰岩の安定対策として、注入式長尺先受工および注入式長尺鏡ボルトを追加。
- ・鏡面の崩落や肌落ちの防止を目的に、鏡吹付コンクリートを追加。



図1-5 月浦トンネル位置図

I期線施工時

均一なシルト岩層が連続し、切羽が自立(安定)。



II期線施工時

上部には砂岩層、下部には凝灰岩層が存在し、断層面から湧水が発生。

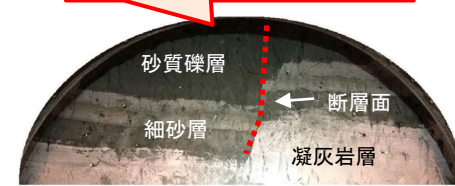
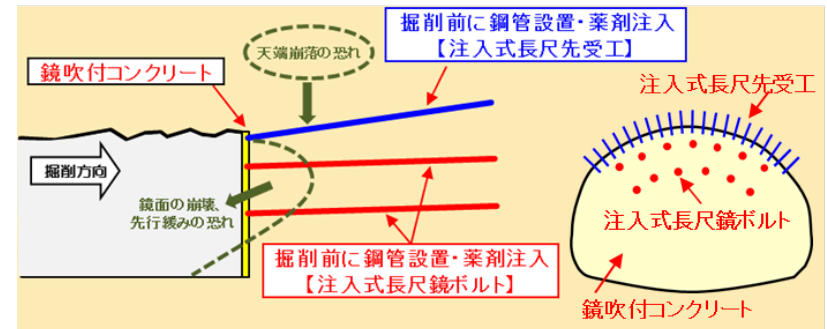


写真1-2 切羽の状況



補助工法概略図(縦断面図)

補助工法概略図(横断面図)

図1-6 補助工法の概要

(5) 見直し後の事業費

全体事業費：約1,250億円→約1,270億円に増加（+約20億円、1.6%増）

2. 事業の投資効果

事業の効果等

(1) 便益に係る整備効果

① 走行時間の短縮

・金沢東部環状道路の残事業区間の整備により、円滑な走行環境が確保され、事業区間の走行時間に約9分の短縮が期待される。

② 交通事故の減少

・これまでの一部4車線化により、死傷事故件数は約7割削減されており、残事業区間の整備により、さらなる事故減少効果が期待される。

(2) その他の効果

① 日常生活圏の連携強化

・金沢市中心部へのアクセス性が向上し、通勤面においても地域間の連携強化が期待できる。

② 主要観光地へのアクセス向上

・金沢市内の観光施設や中心部へのアクセス性が向上する。

③ 第三次医療施設へのアクセス向上

・津幡市・かほく市方面から金沢大学付属病院や石川県立中央病院への搬送時間が短縮し、搬送先の選択肢が増え、救急救助活動の支援が期待できる。

④ 防災機能の向上

・金沢東部環状道路は、浸水被害を受けない高さに位置し、緊急時のネットワークの強化が期待できる。

⑤ 地域産業への支援

・工業団地と国内外の航路拠点である金沢港との時間短縮や走行環境の向上が図られ、地域産業の活性化が期待できる。

⑥ 地域連携プロジェクト（石川県新長期構想）の支援

・石川県の長期計画である「ダブルラダー輝きの美知」構想の実現に寄与。

3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）

年度： 令和2年度 事業名： 国道159号 かなざわとうぶかんじょう 金沢東部環状道路
 担当課： 道路計画課 担当課長名： 一木 慎太郎

項目	判定		
	判断根拠	チェック欄	
事業を巡る社会経済情勢等の変化			
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	■	
前回評価からの事業費・事業期間の増加			
事業費の増加	事業費の増加は1.6%(1,250億円→1,270億円)	□	■
事業期間の増加	事業期間の延長は5.3%(38年間→40年間)※開通見通しは未公表	□	■
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等			
費用便益分析マニュアルに変更がない	費用便益分析マニュアル改訂(H30.2)	□	
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	需要量等の減少はない	■	
周辺ネットワークで新規事業化がない	周辺ネットワークで新規事業化がある(海側幹線(今町~鞍月))	□	
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている	前回評価時における感度分析の下位ケース値が基準値を上回っている。 平成27年度評価時の感度分析の下位値 〔全体事業〕・交通量(-10%) B/C=4.1 [残事業]・交通量(-10%) B/C=12.1 ・事業費(+10%) B/C=4.3 ・事業費(+10%) B/C=11.9 ・事業期間(+20%) B/C=4.2 ・事業期間(+20%) B/C=12.9	■	
前回評価で資料の作成を省略していない		■	
前回評価で費用対効果分析を省略していない		■	
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	なし	-	
以上より、審議区分： 一括 資料： 作成 費用対効果分析： 実施 とする。			

4. 費用対効果

事業名	<small>かなざわ どうぶ かんじょう</small> 国道159号 金沢東部環状道路						
起終点	起点：石川県 <small>かなざわ</small> 金沢市 <small>いままち</small> 今町 終点：石川県 <small>かなざわ</small> 金沢市 <small>すずみだい</small> 鈴見台				延長	9.4km	
事業概要	<small>かなざわ どうぶ かんじょう</small> 金沢東部環状道路は、「金沢市中心部の交通渋滞緩和」、「広域的な幹線道路ネットワークの形成」、「中心部における通過交通の排除」などを目的とした、延長9.4kmの道路事業である。						
昭和62年度事業化	昭和60年度都市計画決定		昭和63年度用地着手		平成3年度工事着手		
全体事業費	約1,270億円	事業進捗率 (令和元年度末)	92%	供用済延長	3.9km (暫定2車線) 5.5km (4車線)		
計画交通量	22,700～49,000 台/日						
費用対効果 分析結果	B/C	総費用 (残事業) / (全体事業)	総便益 (残事業) / (全体事業)	基準年度			
	(事業全体) 3.2				112/2,329億円	1,346/7,352億円	
	(残事業) 12.0	事業費： 84/2,219億円 維持管理費： 27/ 110億円	走行時間短縮便益： 1,304/6,524億円 走行経費減少便益： 37/ 657億円 交通事故減少便益： 4.9/ 171億円	令和2年度			
感度分析の結果							
(事業全体)	交通量： (-10%～+10%) B/C=2.8～3.3	(残事業)	交通量： (-10%～+10%) B/C=9.5～14.8				
	事業費： (+10%～-10%) B/C=3.1～3.2		事業費： (+10%～-10%) B/C=11.2～13.0				
	事業期間：(+20%～-20%) B/C=3.1～3.2		事業期間：(+20%～-20%) B/C=11.8～12.4				

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内容と一致しないことがある。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は令和2年度評価時点。

※費用及び便益額は、10以上：整数止め、1.0より大きく10未満：小数点1桁止め、1.0以下：小数点2桁止め とする。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果は原則小数点1桁止め。ただし、四捨五入で1.0となる場合は、小数点2桁止め。

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

事業の必要性等に関する視点

【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

○前回事業再評価時以降、需要の見込みや地元情勢など社会情勢に大きな変化は無い。

【事業の投資効果】

○本事業の整備により、「走行時間の短縮」「交通事故の減少」「日常生活圏の連携強化」「主要観光地へのアクセス向上」「第三次医療施設へのアクセス向上」「防災機能の向上」「地域産業への支援」「地域連携プロジェクト（石川県新長期構想）の支援」などの効果が発揮される。

【事業の進捗状況】

○事業の進捗状況：用地進捗率100%、事業進捗率92%（令和元年度末）

○残事業の内容：トンネル工事、改良工事、橋梁工事等

事業の進捗の見込みの視点

- ・用地は取得済みであり、現在までに事業は約92%が完了。平成18年度に全線暫定2車線で開通後、平成24年度にはかなざわ金沢市ひがしながえまち東長江町～すずみだい同市鈴見台間を、平成29年度にかみやちまち神谷内町～ひがしながえまち東長江町間で4車線化で供用済みである。
- ・今後は早期の全線4車線化に向けて、つきうらまち月浦町～かみやちまち神谷内町間のトンネル工事及び改良工事を推進し、うめだまち梅田町～つきうらまち月浦町間についても引き続き事業を推進する。

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・新技術の積極的な活用により、コスト縮減を図る。

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

関係する地方公共団体等の意見

- ・ 地域から頂いた主な意見等：とうぶかんじょう 東部環状道路建設促進協議会から、早期全線4車線化に向けた要望をいただいている。
- ・ 知 事 の 意 見：かなざわ とうぶかんじょう 国道159号金沢東部環状道路は、かなざわ そとかんじょう 金沢外環状道路山側幹線の一部を構成する極めて重要な幹線道路であり、平成18年の山側幹線全線開通により、中心市街地の渋滞が大幅に緩和されるとともに、沿道には商業施設の集積が進むなど大きな効果が現れている。
また、平成24年のすずみだい 鈴見台～ひがしながえ 東長江間及び平成29年のひがしながえ 東長江～かみやちまち 神谷内町間の4車線供用により、当該区間の渋滞が大きく改善されたところである。
一方で、残る2車線区間については、未だ慢性的な交通混雑や交通事故が発生していることから、かなざわ 金沢都市圏全体の交通の円滑化を図るとともに、北陸新幹線金沢開業効果を持続・発展させていくためにも、早期の4車線化が必要である。
このため、かなざわ とうぶかんじょう 金沢東部環状道路については、引き続き事業を継続するとともに、コスト縮減に努めつつ着実に整備を進め、令和5年春の北陸新幹線敦賀開業を見据えたかみやちまち 神谷内町～つきうらまち 月浦町間の4車線供用と、残る2車線区間の早期4車線化を図っていただきたい。

6. 対応方針（原案）

事業継続

（理由）

- ・当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。